

追悼 平尾邦雄先生

向井 利典（宇宙航空研究開発機構 技術参与，元理学系研究科 教授 兼任）

平尾邦雄名誉教授（地球惑星科学専攻）は2009年2月13日、病によりご逝去されました。享年87歳でした。

先生は、1944年9月に東京帝国大学理学部地球物理学科を卒業後、約1年間の海軍技術将校を経て、理学部助手として東京大学に在職された後、1950年2月に郵政省電波研究所に転任しました。その後、同研究所電離気体研究室長を経て、1965年9月に東京大学に戻られ、宇宙航空研究所教授に着任されました。1981年4月に同研究所が文部省宇宙科学研究所に改組されるに伴い、宇宙科学研究所教授に配置換えとなり、さらに同研究所惑星研究系研究主幹などを併任された後、1985年3月、停年により退官されました。この間、1966年から1982年まで理学系研究科教授を併任、地球物理学専攻において大学院教育を担当、多くの大学院

生を研究指導し、1982年に東京大学名誉教授の称号を授与されました。

先生のご研究は、当初は電波気象学を専門としていましたが、1957-58年の国際地球観測年（IGY）を契機に始まったロケット実験を用いて電離圏プラズマの研究を始められました。とくに、その基本要素であるイオンおよび電子の数密度並びに電子温度の観測について独創的な測定器を開発、世界でもっとも信頼性の高いデータを提供し、この分野の発展に大きく寄与されました。

1970年に日本初の人工衛星「おおすみ」の打上げが成功して以来、日本の宇宙科学は科学衛星観測を用いて飛躍的な大発展を遂げました。先生は、この草創期から宇宙科学のグループを牽引し、とくに1985年から翌年にかけてのハレー彗星探査計画のリーダーとして世界的な成果



■ 故・平尾邦雄先生

を挙げられました。

また、学会活動としては、国内では日本地球電気磁気学会の会長、評議員を歴任し、国際的にもコスパー（COSPAR）の理事として活躍されました。1990年4月29日に紫綬褒章、1995年11月3日に勲三等旭日中綬章を授与されました。

ここに先生のご功績と闊達なお人柄を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

追悼 西島和彦先生

松尾 泰（物理学専攻 准教授）

本学名誉教授西島和彦先生（物理学専攻）は、2009年2月15日に逝去されました。享年82歳でした。

先生は1948年に東京大学理学部物理学科を卒業後、大阪市大に移られました。その後イリノイ大学教授などを歴任された後、66年東京大学理学部教授となりました。86年に京都大学基礎物理学研究所長として転任されるまで20年にわたり本学において研究・教育と大学の運営に尽力されました。そのうち79年から82年まで理学部長をお勤めになっています。

素粒子理論研究者として先生の名前を世界的に有名にしたのは、1953年20歳代後半の時にその当時宇宙線の観測で次々と発見されていた新しい素粒子の振

る舞いを、奇妙さ（ストレンジネス）とよばれる量子数を導入することにより説明したお仕事です。これは「西島・ゲルマンの法則」として素粒子の分類の中心的概念となり、ノーベル賞の候補にもあげられていました。また、このお仕事以外にも束縛系の解析や、公理的場の理論の研究など素粒子論のさまざまな分野で重要なお仕事を残されています。先生の学問的なアクティビティーは最近になっても衰えず、70歳代後半に書かれた超組理論に関連するお仕事も有名です。

先生は知性にあふれる明快な講義をされることでも知られており、その雰囲気は先生が書かれた多くの教科書を通じてうかがい知ることができます。



■ 故・西島和彦先生

東大で多くの後進を育てられただけでなく、仁科財団理事長としてアジアを中心とした発展途上国の物理学者の育成にもご尽力されました。

先生の学術文化への貢献に対しては、仁科記念賞（56年）、日本学士院賞（64年）、文化勲章（04年）など多数の賞が贈られています。偉大な足跡を残されて逝かれた先生を心より悼みます。

東京大学大学院理学系研究科・博士学位取得者一覧

(2008年12月, 2009年1月, 2月)
(※)は原著が英文(和訳した題名を掲載)

種別	専攻	申請者名	論文題目
2008年12月15日付学位授与者(1名)			
課程博士	地惑	山岸 孝輝	大気大循環モデルと3次元氷床モデルを用いた氷期北半球氷床上の表面質量収支に関する研究
2008年12月31日付学位授与者(2名)			
課程博士	物理	松浦 俊司	ホログラフィック非局所演算子(※)
課程博士	地惑	桑谷 立	プレート境界における脱水変成作用と吸水変成作用—丹沢山地の変成岩と三波川帯中の五良津エクロジャイト岩体の岩石学的研究(※)
2009年1月19日付学位授与者(1名)			
課程博士	生化	陳 彦榮	マウス肝臓における代謝酵素の発現制御機構の解析(※)
2009年1月30日付学位授与者(1名)			
課程博士	物理	久松 康子	BES-II測定器によるJ/ψ崩壊からの $\Delta^{++}\bar{\Delta}^{--}$ 生成の研究(※)
2009年2月9日付学位授与者(2名)			
課程博士	物理	澤田 龍	10^{-13} の感度でレプトン・フレーバー保存則を破るミューオン希崩壊を探索する実験の為の液体キセノンシンチレーション検出器(※)
論文博士	天文	山室 智康	近赤外エシエル分光器NICEの開発とCassiopeiaの突発的質量放出現象の分光モニター観測(※)

あとがき

理学部ニュースが全ページ色刷りになって、丸4年が経ちました。表紙の色は、最初の2005年度が水色、2006年度は藤紫、2007年度は若緑、そして本2008年度は朱鷺(とき)色でした。どうやって決めているかというと、実は年度末に交代する編集委員がいる場合、その人が置きみやげに、次年度の色を選ぶ習慣になっています(交代する委員が居ない場合は相談で決めます)。2005年度末で交代された生物科学専攻の真行寺先生が選ばれたのが藤紫、その後を2年間にわたり務められた上田先生は、朱鷺色を選びました。今年度末には化学専攻の米澤先生が交代されます。長らくお疲れさま

でした。米澤先生が置きみやげにどのような表紙の色を選ばれるかは、5月号をお楽しみに。

さて最近、服にせよ自動車やパソコンのボディにせよ、色を横文字で表現するようになってしまいましたが、日本には世界に冠たる豊かな色彩分化と「色名」がありますから、ぜひそれらを使いたいものです。「水色」「藤紫」「若緑」「朱鷺色」はどれも古来からの色名です。Wikipediaで「色名」を検索すると、和洋混合で多くの色名が並んでいます。さらに「定義できない色」として、「虹色」「玉虫色」「無色」などもありました。なるほど。

牧島 一夫(物理学専攻 教授)

第40巻6号

発行日:2009年3月20日

発行:東京大学大学院理学系研究科・理学部

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

編集:理学系研究科広報委員会所属 広報誌編集委員会 (e-mail:kouhou@adm.s.u-tokyo.ac.jp)

牧島 一夫(物理学専攻) maxima@phys.s.u-tokyo.ac.jp

広報・科学コミュニケーション:

横山 央明(地球惑星科学専攻) yokoyama.t@eps.s.u-tokyo.ac.jp

横山 広美 yokoyama@sp.s.u-tokyo.ac.jp

野崎 久義(生物科学専攻) nozaki@biol.s.u-tokyo.ac.jp

HP担当:

米澤 徹(化学専攻) tetsu@chem.s.u-tokyo.ac.jp

柴田 有(情報システムチーム) yuu@adm.s.u-tokyo.ac.jp

斉藤 直樹(庶務係) nsaito@adm.s.u-tokyo.ac.jp

HP & ページデザイン:

加藤 千恵(庶務係) c-kato@adm.s.u-tokyo.ac.jp

大島 智(情報システムチーム) satoshi@adm.s.u-tokyo.ac.jp

印刷:.....三鈴印刷株式会社